藁

明治文庫

未摘花

巻名以哥 并 詞書巻名

なほしさかりもなりしに何とか

まつも花をかしきもん

朝ニハ花のもとにつも花のかゝひ

やうにさしちらしたり

まつも花ハ紅花之末より暗

くらしとよりて暗しとしらせて

もとより次第につもあれ未摘

花とかへり

琴罷輙挙酒酒罷輙吟詩
三友廼相引循環無已時
一弾愜中心一詠暢四肢
猶恐中有間以醉彌縫之 下略
樂天の小窓三友は琴詩酒
琴詩酒友皆拋我雪月花
時最憶君 文集律 文集巻二十五
いまいくさや今一種酒之
詠とは説あれども僻説也
日本にて用ひきなら詠のまりこと

寄ひまつし其とり初めの居
詩作す其例多くこれ詩
りやよく詠と作りけるよし
大鏡なみ程今出河院大御
も詠とつくりて高倉集にはれり
今一くさに詠をとるべきを
或 酒の女の為ありしんとは琴を
ちつりしきかたらん人とはしてつきた
山云の如く拙者の書は月次へ
うたてあしんとて 或 詠物つし

○承ぬ　こゝは命婦ゝ無所存なる
筆殊して世ゝらぬことゝ
人の口なれと　さらはこゝの口すら
まれ〳〵なるまゝ　なれ
さ連くらぶる　好文門流の道
也　尚所うちしき女とゝん
よしまゝ　よしめさ
さうしわのうれ　人々に
さわてぬきりより如し
こえぶのゝ　衣被香文　喜衣被香

一云薫衣香　すゝて薫物の名也
うつしゝる物と云也
中　香字抄云　採梅檀樹葉皮
春節　為香　故云葉皮
或　衣にうつる包也　衣につむと云也
投此屋院ハ先ハ白袋也上
伝されし
御連ゝもとゝ和ゝ
御してちゝ　ゝの御ゝ

すなはれまゝにて居る之物ゝ物ゝ
いひそとはいひそとなるとも
定 志ノ内上ノ志ノ字渇下ノ志清也
樓遑を志ノ内ト訓ス
中云やすらはる人也無言を
行するを本稿意切返言
云々なれめけ云云 義曰樓遑
無言ト云事不審河云日本
紀樓遑不知其所云云是非
無言之事也

神武紀ニ山中嶮絶無復
可行之路乃樓遑不知其所ニ
跋渉ス

俯仰喉咽進退而血泣
日夜懷堀無所訴言云云
進退ノ字ニ志ゞまつてと
能ハ君ノ進退ニ源氏ノ負テ
堪忍アルの由之下ノ心ハ無言
ノ心ヲ含みり
源氏ニ物ナの名ソト制止なき

すなはれまゝにて居る也 物ノ物ニ
いひそといふ事なるとも
宋 志ノ内上ノ志ノ字渇下ノ志清也
棲遑を志ノ内ト訓ス
中云やすらはる人也 無言を
行する事也 本稿云切返言
云ふ故めけ云ふ 義曰棲遑
無言トニ事不審 可云日本

日本紀第六 垂仁五年 皇后
其兄ノ叛ニ与メ天皇ヲ殺サン
トスル時ノ詰ニ進退ノ字アリ
俯仰(フシ)喉咽(ムセヒ)進退(ジヾイテ)而血泣(イサフ)
日夜懐堀(イキトホリテ)無所訴言(エマウスマシ)云々 其
進退ノ字ヲ ぞぞまつてと ヨメリ
能ハ君ノ進退ニ源氏ノ負テ人
堪忍アルの由ニ下ノ心ハ無言
ノ心ヲ含メリ
源氏ニ物ナのれソト制止なき

たはのこきかひ（ツイ）あそく
賭の御倉なるところ
まうそて　賭のところを
んしくるつし
まへし（ゴロ）　蜜の都ん（そこ）
あるそにくもとられて
清暑は勝てる女房に　帯
をとさん下宰相の　御とも　此所
なるをや練てとみてける
まつむらを女方はあはしく

古代なるもし
○清もとい　治なるとをきもし
すいもとい坊　内教坊に
大とのゝし　内書の官女の
催する所也
○日　大歌所　教坊（カウ）これあり
○歌　教ノ字　内教坊のみなる
トよみて　教坊のみなかうぶ（チウ）綾
内侍所　今は神殿なり
おそて　此所内侍司のつかさ

世中をとことやけしとなくとも
とはしたらねのみなりしあるに
そしいて　源氏の月意之
うぐや　源氏の當をおとろ之
驚破（ソヂヤ）　長恨哥
倍（千）こゝれたとゝ羽根
さらに　昭和の月後
ととゝいひ人之
さい信を　山斜院にもなし
侍（千）信も無信を年りてゐさる之

知るしらる　夷イナカめさ
いとゝこれ　ぬちりつる
前に人　くのうまへし　雪之
あはれさも　けむとゝもなるゝと
聞るゝ
これものをそれ
大の治るにて　河原院を
のまれ　おりしかの之
初のやまし　河原院なる
つまわるゝ

ましつき髪のよき人なり
髪はすそのよき様なるや
う地き　貴女の美する也
きれいる　高き地しかるの様
色くいろ　れきれいるおと
けくとらへり
ゆるし女也　延喜七年　急後
三善清行請禁深紅衣服
黄織田組濃紅輕黄来及
火色者不有制限

されハゆるし女ハ前禁し及
雑も表用すると
紅黒の女　落ち後ゆるし色と云
陪膳女房ナト色をゆるとなり
濃き紅黒　青色なとゆるし
これハゆるさねハ不見なり
うちゞみたる　紅の女乃
うすくて色のうつりたるなり
おこりなり　黒の色ぬくろこと
可貴本青表紙ノコトニ
可出当秘ニハ紅ノ所ニ褂一重

紅の襦とみたりしすれは
紅をも小襦とみて望をも大襦
とみるへきにん
中 衣ノ次第衣（キス）ノ上ニ表衣其上ニ
小襦也すなはち次第ニシメラカス之
[illegible]曰給ラハ[illegible]表衣ハ
貂裳也此上ニ紅襦ヲ[illegible]
トニコ[illegible]
[illegible]のうへきね　貂裳也
フルキ　テレトニ獻也

昔もしたる事いふさきなり
とのべり
弘 此次第ふるさのうちさうなし
[illegible]ノ大襦[illegible]に[illegible]色の
こうちさ[illegible]
或 [illegible]集ニ云 横川ニ往行ける
に中[illegible]より[illegible]紫宋 [illegible]
のかしれ[illegible]とて[illegible]
[illegible]
[illegible]

白氏文集 卷二 秦中吟 十首

重賦

厚地植桑麻 所要濟生民
生民理布帛 所求活一身
身外充征賦 上以奉君親
國家定兩稅 本意在愛人
願初防甚淫 明敕內外臣
稅外加一物 皆以枉法論
奈何歲月久 貪吏得因循
浚我以求寵 斂素無冬春

織絹未成疋 繅絲未盈斤
罣胥迫我納 不許暫逡巡
歲暮天地閉 陰風生破林
夜深煙火晝 霰雪白紛紛
幼者形不蔽 老者體無溫
悲啼與寒氣 併入鼻中辛
昨日輸殘稅 固窺官庫門
繒帛如山積 絲絮似雲屯
號為羨餘物 隨月獻至尊
奪我身上暖 買雨眼前恩

進入瓊林庫（ニテ）（ノラニ）歳久化為麿（メメ）
まなのうめにいてく　上の和称
よく春の吟に似たれ　春也
の鼻のまゝを見る如なる人
宅き時も常の人の鼻さ
をつきて辛き也
或 前に洗ひあれて於れとなる
清しける間とある却なる
いまみつけ遣るんと
所中ねこみつけれてはいるん

せおれ也
すつなくとはすへきやうもと
よのつまなる間とのなる
本稿のさ後大和なるを也
間かわりなるさまに
間とくしきみつき間如と
ふるきのえなるぬ　而白く出る也
はつりしはなるれ　春也の性也
けさくたるれ人也
或 うやみなるもワつくしとも

九難色とおもし紙ととれ乃
冬のうちにてはちりれ萌黄色を紙かれ
立秋のころ迄ハ用ひしとハ出ず
これハきぬのものし
紅紅のおもて紅くうら例多し
松重 裏萌黄紗 紅梅直衣 連綾
清紫章関白 直衣布袴
紅梅織物直衣 生織物指貫
皆練衣也
寛弘三五 清紫章関白 行曲水

宴主人 若桃紅直衣 柳色指貫
山吹出袖
永久三十二廿五 五節章御覧日
清紫章関白 紅梅浮文蒲萄末
指貫 人皆紅衣
二藍ハうちよりもきありのいろなるとのゝ
白よりもあさき色のさまに
よりあさきのこいろのさま
そと色のことハみなうちしく織
ざる色とのことまやのいろなるとし

墨付 九十三枚